てしまうことも問題である。多くの資材は、米国のコンソリデーターからコンテナに満載されて引き渡されるため、資材を現場に保管する必要があり、狭い敷地では、こうした資材は、施工中何度も運搬されなくてはならないため、製品にダメージを与えやすく、無駄な労力がかかることにもなる。

静岡のプロジェクトで、西洋式の街路設計や景観設計が取り入られている。街路に面した建物の屋根の傾斜は、街路から見た時人間的なスケールとなっている。

作業計画と工程順

日本の住宅建築では、各作業の必要条件に合わせて工程計画を調整するクリティカルパスメソッド（CPM）が行われていない。（CPMを導入した既存のコンピュータソフトで簡単に行える。）

また、日本の現場では、各作業の関連性を充分考慮しないで工程が計画されているようだ。例えば、日本では階段は仕上げ材として取り付けられるため、中盤の施工段階では作業員が各階を移動するのに梯子を使わなくてはならず、資材運搬の妨害、作業の低率化、安全の障害を引き起こしている。

コスト管理

日本では、建築コストの積算は資材と労力を合わせて行うので、しばしば各プロジェクトの予算が把握しにくい。米国では多くの建築業者が建築仕様協会（CSI）の番号システムをコストの区分に利用しているが、日本ではこのような標準化したシステムが見られず、このような状況では、自社のコストを他社のコスト平均と比較して、効率良く作業が行われているがどうかを判断しにくい。

また、米国で行われているその他のコスト管理システムの要素が、日本では取り入れられていないようだ。そのうちの一つは、コスト管理の責任を資格ある現場監督に与えていないことである。また、コスト改善計画を文書で明確にしたものが日本のプロジェクトで見られない。米国の会社全てがこれを実行している訳ではないが、大半の建築業者（ビルダー）は、そのようなプログラムを実施している。その結果、顧客のために目標とする価格範囲で最善の製品を選ぶ価値工学（バリューエンジニアリング）が常に行われてる。

品質管理

日本では、総合的な検査システムが確立されておらず、施工上の欠陥を的確に発見できないため、問題点が指摘されないまま住宅完成に至ってしまうケースがある。

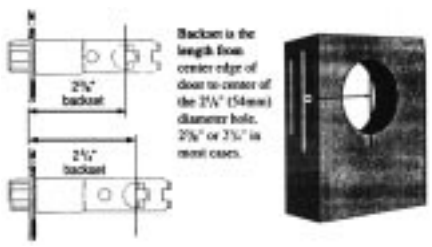
この記事に関するお問合せは、ワシントン大学林産物国際貿易センター（CINTRAFOR）までご連絡下さい。また、現在、研究結果に関するさらに詳しい情報（施工詳細、構造の特徴、製品仕様など）を含んだ日本語版の報告書を制作中。日本語版は数ヶ月内に配付可能となります。本書入手をご希望の方は、P11のファックス申込書にご記入の上、ワシントン州政府日本事務所までご送信ください。

ワシントン州企業紹介　グリーン・クロウ

グリーンクロー社のベルビューオフィス建材部には、建材取り扱い歴30年以上のキャリアを持つマネージャー、ディック・ライアンズを筆頭に、各スタッフがきめ細やかなカスタマーサービスの提供に励んでいる。同社はコンソリデーターとして、幅広い多品目商品を日本の顧客に提供、発注の際には顧客の仕様に合う的確な商品を選択し、集荷・検品・出荷まで、細部に渡り配慮が施されている。

さて今回は、今号の特集記事でもあるドアについて同社コメントを紹介しよう。

コンソリデーターが日本の顧客とプレハング（枠付き）内部・外部建具を発注する際には、ドア加工会社に対してその加工指示を的確に聞き出す必要がある。外部建具の場合にはメーカーによってドアの開き勝手の呼称が異なるためで、発注時には開き勝手の図を描いて確認する必要がある。また、使用するドア金物の仕様に合わせて、建具に穴を開けてもらうのだが、指定を怠ると2-3/8"(60MM)のバックセット（上図参照）で１つ穴が標準として加工されてしまう。バックセットにはＵＳの



建て具木口から金物用に開ける
穴中心点への距離

ドア金物業界で２種類の標準が有り、もう一つは2-3/4"(70MM)である。つまり、ドア加工会社とドア金物会社への発注が合致しない場合、送られてきた金物がドアに合わないという事が起こり得るのである。また２つ穴の際にはデットロック（上部の穴）の直径そして上下の穴の間隔も各ドア金物メーカー指定通りに開けるのがベストである。ドア金物の小口部分の形状にも何種類かあるのでその仕様予定金物の仕様に応じた小口の加工形状を指定する必要がある。

グリーンクロー社では、ドア・ドア金物のみならず、顧客に全ての取扱商品について図面との照合・デザインアイディアの提案等の一貫したサービスを提供している。又、年に１～２度の訪問ツアーで顧客によって建てられた物件を見学、常に顧客へのサービス向上に努めている。